

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100681		
法人名	特定非営利活動法人シルバーの森夕照苑		
事業所名	シルバーの森夕照苑		
所在地	大津市富士見台44番14号		
自己評価作成日	平成27年10月22日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成27年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事は、旬を取り入れた新鮮な食材を選び、調理法の工夫をし、1日30品目を摂取できるよう、バランスの良いメニューを考え、3食すべて手作りでの提供している。また、開設以来、夕食後に毎晩足浴を行うことで気持ちよく入眠していただき、安眠につなげる取組をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成27年5月に新築移転してきたばかりの事業所であり、利用者がこれまでの生活を出来るだけ継続して毎日を過ごせるように支援している。月2回の往診、週1回の訪問看護師の来訪による医療支援で入居者の健康と安全の確保に努力している。利用者と職員とは殆どがそのまま引越して来ており、職員も相互の理解と協力により新天地で意欲的にいきいきと利用者の支援に努めている。利用者は職員の気持ちのこもった手作り料理を遠慮ない批評も交えて楽しみ、健康状態の点検も兼ねた就寝前の足浴で心地よく入眠している。整頓され広々とした居間で利用者は、津軽三味線やギター演奏、輪投げ、ドミノ倒し、紙芝居などを楽しみ、食材の下拵え、洗濯物のたたみや掃除機での掃除を「人使いが荒い」など軽口をたたきながら本人の持っている能力を発揮して、穏やかに過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護計画について話し合うとき、ケアに対してケアがどのようになっているか、悩むような場合は、理念である原点に戻り、一人一人の利用者様について、今一度考えている。	「私らしく穏やかに暮らす」を理念として掲げ、利用者の長所や強みを活かし暮らしてもらえるように、紙芝居の読み手やお茶の主人役を担ってもらうなど、できるだけ本人らしく過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5月に移転してきたばかりで、地域との繋がりをこれから築き上げなければならない。	新住所での自治会へ入会の手続きを始めている。地域の行事への招待には応じて参加しているが、地域との日常的交流はこれからである。	自治会に入会し、地域に馴染み地域との交流を深めることを地道に進めていって欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の前を通行される方にグループホームについて知っていただけたらと、お天気の良い日には、利用者さんと散歩したり、外気浴を楽しんだりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑内で困りごとが発生した場合は、運営推進会議で話し合い、貴重な意見をいただいている。また、推進会議の内容は、議事録にまとめ、職員に回覧し、情報の共有化につとめている。	包括支援センター、行政書士、自治会長、家族などが参加し隔月開催している。介護状況の報告、自治会への入会、近隣地域との交流についての話題が主であり、サービス向上や評価の討議が十分になされていない	近隣地域との交流を深め、サービス向上や外部評価の課題の相談・討議を進めて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアや運営について悩むことがあると、地域包括センターに相談に行ったり、事故や問題が起こった時には、大津市介護保険課に指導を仰いでいる。	地域包括センターとは運営推進会議参加時や出向いて、地域との交流や事業所運営など相談し助言を得ている。事故報告を市介護保険課に提出し指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことが当たり前であり、スタッフも拘束をしてはいけないと理解しているはずであるが、スタッフの対応を観ながら、その時々に応じた指導をしている。	睡眠障害の利用者のベッドに足側一部に柵を設け早朝に外した夜勤者は連絡でこの事案の懸念を全員に報告するなど、身体拘束禁止について常に意識して介護している。見守りに努め、夜勤体制の時に限り玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の安心・安全を優先して考えているが、どこまでが虐待なのか分からなくなることがある。時には言葉遣いなども難しい問題である。自分にされて「イヤ」と感じることは、止めるよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、苑内で成年後見制度を利用されている方はおられる。月1回のスタッフ会議において、その人らしい権利が守られるように話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一つ一つ理解していただけるように確認をし、同意もいただきながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の出席を呼びかけている。意見箱を設置し、苦情窓口の案内も行っている。運営に関することや、日々の様子が分かるように『夕照苑だより』を発行して情報発信している。家族来訪時には状況報告と共に、話しやすい環境をつくり、直接インタビューして、サービス向上に努めている。	苑だより、個々の近況報告への反応や運営推進会議に出席する家族の発言や、来訪する家族や後見人から意見を汲み取っている。運営などへの家族の協力希望の声もあり、方策を練っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的に職員会議を行い、運営状況の報告と共に、職員からも意見や提案をする機会を設けている。また、管理者も常に現場に入っているため、職員がダイレクトに意見が言いやすい環境になっている。管理者は意見や提案に対して迅速に対応し、反映させている。	毎月スタッフ会議を開催し内容を共有し運営に活かしている。職員は日常の細かい提案も積極的に行っている。掃除機より箒の低音性を考慮した箒での掃除も採り入れることや、利用者の特定食事のためのフードプロセッサ購入などの提案例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も常に現場に入っているため、職員の能力や就労の状況が把握できている。料理や薬の管理などに職員一人一人が担当をもち、責任とやりがいをもって業務にあたっている。家庭と仕事の両立ができるよう、勤務体制は職員の希望をできる限りかなえるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市主催の外部研修に参加させ、苑内では利用者の急変や緊急時に対応するための救急救命、防火訓練を行っている。また、日々のケア向上のため、接遇、服薬、排泄に関する研修を行っている。就労しながら個人でも資格がとれるよう、勤務体制も配慮、調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所として淡海グループホーム連絡協議会に加盟し、他施設との交流を行っている。また、『看取り』の研修など、同業者による外部からの講師を招き、勉強会の実施や交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートの内容を熟知し、趣味や好きなことから話を展開させ、利用者様とコミュニケーションを深めていく。話しやすい環境をつくることで安心感をもっていただき、また利用者様が困っておられることに対し、職員が対応する姿勢をみせることで信頼感をもっていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入については、利用者様だけでなく、ご家族様の心のケアともとらえている。利用者様が入所してよかったと思っていただけるように、ご家族様ともコミュニケーションをとり、要望等をお聞きすると同時に施設についての理解や関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートの内容からいろいろなリスクも読み取り、まずは利用者様が居心地良く、安心して過ごすことができる支援を行っている。その後、経過を見て、家族とも何度も話し合い、利用者様にあった支援を細かく考えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に日常生活の中でできる仕事をする中で、ご自分の役割や「私もまだまだできる」という実感をもっていただけるような環境づくりを行っている。時には、職員が人生相談をもちかけるようなかたちで、利用者様からアドバイスをいただくこともある。感謝の言葉は忘れず伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には「夕照苑だより」や近況報告をお送りして、利用者様の苑での様子を知っていただき、ご家族との面会や外出など「ふれあいあいの場」をもっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活歴や交友関係などとコミュニケーションをとることで、友人やご近所の方が訪ねて来られると、大歓迎し元気で生活しておられることを知っていただいている。	家族宛の年賀状、苑だよりや近況報告、定期的面会などで家族と交流している。近所のカラオケへの同行支援をしている。地域交流室を設け、2ヶ月に1回の美容室を開き、馴染みの形成と維持に努めている。友達や元弟子などから季節毎の絵手紙も届いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格をよく知ること、人間関係が円満になるよう、席替えなどの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院されたときは、お見舞いに行ったり、他の施設へ移られたときは、その後の様子をうかがっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを聴き、できる限り希望にそえるように努めている。	フェイスシートの情報に基づいているが、体験入居や入居後の本人の意向を聴きとるように努め支援している。家族との外食、一度家に帰りたいという希望の受入など、本人の思いに添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族や担当ケアマネージャーから今までの生活歴を聞き取り、利用者様を知って、職員全体で情報を共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態に応じた内容で家事仕事に参加してもらい、能力維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画について話し合うとき、ご家族にも参加していただき、ケアプランを作成している。	本人、家族の意向も聴きとる担当者会議、毎月のモニタリングに基づき、本人の強みを活かすことに焦点を当てて、3ヶ月ごとに介護計画を見なおしている。急変時には随時計画を見なおし、共に家族の同意と承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者さんのニーズに合わせて、マッサージをしていただいたり、体操の講師やボランティアの方々来ていただき、日々のレクリエーションにも力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の方々にも参加いただき、現状を報告し、アドバイスをいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医師の診察を希望される場合は、月2回受診して頂き、必要に応じて地域の中核病院と連携し対応している。また、掛かり付け医師を希望される場合は家族様と受診していただいている。協力医の受診は強制していない。	家族の希望で全員協力医がかかりつけ医であり、月2回の協力医の往診、週1回の訪問看護で健康維持に努めている。認知症診断は事業所が同行支援し、すべての受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が不在のため、職員が日々バイタルチェックを行い、週1回の訪問看護師に現状報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の中核病院に入院していただき、ご家族、医師、看護師と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携により、終末期の看取りもできるようになっている。昨年9月から対応できるようにしているが、現在、利用者様の中に終末期の方はおられない。	医療連携体制加算を導入し、重度化と看取りに関する指針、急変時の対応に関する意志確認書を文書化し、同意書を交わしている。看取りに関する研修を受け体制を整備しているが、看取り経験は未だない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防火訓練や救急救命訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年5月に移転してきたばかりで、近隣住民の協力を得るための話し合いは出来ない。今後の課題である。防火訓練は、年2回実施している。	消防署の協力を得て、年間2回、内1回は夜間想定での消火・避難訓練を実施している。避難マニュアルも整え、飲料水、缶詰パン、おむつ等の備蓄をしている。地域の協力・参加は得られていない。	地域の協力・参加を得ての訓練を実施し災害に備えられるように努めて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報は利用者様やご家族、来訪者等の目にふれない場所に厳重に保管している。また、職員には接遇や個人情報の保護に関する研修実施している。利用者様一人一人の性格を把握し、言葉使いに配慮した対応を心掛けている。	接遇や身体拘束をしない研修も受け職員で共有している。管理者は職員の言葉遣いなど、さりげなく注意をし、職員間でも注意合っている。個人情報は別室の事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	歌を歌ったり、紙芝居など、レクをしながら、個々の意思を尊重しつつ、思いや希望を見つけ出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々楽しく穏やかに過ごしてもらえるよう、懐かしい歌を歌ったり、カルタ、おはじき、ボール遊びなど懐かしい遊びを取り入れ、会話を楽しみながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室でのカット、手足の爪切り、風呂上がりや毎朝の整容、気候にあった服選びに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が順番に調理することで、個々にメニュー、調理法、植栽選び、盛り付けに工夫を凝らしている。食事中は、職員がテーブルに入り、一緒に食事を摂ることで、楽しみながら安全にも注意を払っている。準備や後片付けは役割分担を決めて行っている。	新鮮な食材を取り寄せ、職員は輪番で手作りし、バランスの良い内容で彩りよく盛り付けして、利用者と一緒に冗談を交わしながら食事を楽しんでいる。可能な利用者は後片付けや皿洗いを手伝っている。外食、お好み焼きやバーベキューを職員と共に楽しんでい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューや摂取量は、わかりやすく記録し、管理している。水分不足にならないよう提供し、常に補充に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや義歯の手入れの見守りを行っている。 義歯は、夜間に職員が洗浄し、消毒して管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを知り、声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう心掛けている。 夜間についても同様の対応をしている。	自立に向け、職員の声かけや誘導で、リハビリパンツからパンツへの成功例もあり、不潔行為の原因を突き止めて行為を改善した事例もある。外出・外食時は念のためにリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排便が出来るよう、トイレに一定時間座っていただき、腹部のマッサージを行う。また、普段からこまめな水分補給、適度な運動、食物繊維の摂取を心掛けて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の健康状態に応じて、全員、2、3日おきに入浴してもらえるよう、個々の希望にそって行っている。	2～3日に1回、要望があれば毎日でも入浴ができるように配慮している。体格のよい利用者には2人介助で、バルーンカテーテル使用の利用者にはシャワー浴や清拭にて支援している。健康管理や安眠につながるよう、毎夕食後足浴を支援している。みかんの乾燥皮を浮かべて季節を感じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、足浴を行い、気持ちよく眠れるよう、安眠につなげる取組を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬は担当の職員が管理している。また、睡眠導入剤が必要な方は、時間を決めて服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が持っている能力を発揮してもらう工夫と場面づくりを行っている。 一般の方と一緒にカラオケ教室に参加しておられる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、苑の周りを散歩し、身近に咲く花や景色を楽しんでもらう。四季折々を楽しんでもらうため、お花見や紅葉狩りに出かけ、外食を楽しんでもらっている。	前面道路は車の往来が多く散歩が困難であり、横断しないように、茶臼山や周辺の散歩に出かけている。外出不足を補うように外食で外出気分を楽しんでいる。外気浴や買い物など外出時のボランティアの支援を得るべく検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人のお金は預かっていない。 本人が希望するときは、職員が買い物に付添い、お金を立て替え購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在の利用者様は記憶を維持することが難しいため、自ら積極的に電話をされたり、手紙を書かれることはないが、年末には、家族宛の年賀状を作成してもらっている。お友達や親族、お弟子さんから季節毎に絵手紙が送られてくる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が集まるリビングは、中庭に面しており、季節感や日の出や日の入り、天気なども分かりやすく、利用者様は、毎日の変化を楽しんでおられる。	新築であり、居間やトイレ、浴室は清潔で広々し、ユニット別の広い調理室を配している。季節の生け花や鉢植え、利用者の作品を居間に飾っている。居間でテレビやゲームをゆったりと楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルでは、気の合った者同士がおしゃべりに夢中になっている。 時には、話が過熱しすぎ、職員が中に入って和をとりにつつことがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた品物などを持参してもらい、自室においたり、家族が持参した写真を大切に沢山かざったり、少しでも居心地の良い部屋になるよう工夫している。	居室には、職員手作りの刺繍絵にそれぞれの名前を付けた表札、ロッカー、ベッド、空調機を備えている。整頓・清掃の行き届いた部屋に、家族の写真や仏壇を持ち込んでいる利用者も居る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほとんどの利用者様が、建物の間取りを理解し、自主的に動いている。また、歩行が不安定な方は、職員が付き添うなどし、安全に配慮している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流が少ない。	地域で開催される行事にスタッフと共に参加する。	事前に地域で開催される行事などを確認してできるだけスタッフも参加するよう努める。	12ヶ月
2	49	外出支援が少ない。	できる限り散歩に同行する。	曜日を定め、ボランティアに散歩への同行協力を求める。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。